



1月 ほけんだより

2020年度 健生



今月の目標

- ・生活リズムを整える
- ・寒さに負けず元気に遊ぶ



今月の行事

- ・身体測定



お願い

★年末年始のお休み中に病気にかかれた方や、年明けの登園初日、**微熱（いつもの平熱より高い）**・**鼻水**・**咳等**の症状がおりの方は、病院で診察をうけていただくようお願いいたします。また、感染症対策のためにご家庭でのご協力をお願いいたします。

★厚着のし過ぎに注意

寒さが厳しくなると風邪予防にと厚着をした子どもが増えてきます。たくさん遊んで汗をかくと逆に冷えてしまう場合があるので、調整のしやすい重ね着にしましょう。

今月のトピックス：冬の事故（子どものやけど）

■やけどの事例

- ・6ヶ月の子どもが棚に置いていたポットの配線を引っ張ってポットを落下させ、体に熱湯がかかった。（程度：重症）
- ・食事中、テーブルに置いていた味噌汁が入ったお椀を1歳の子どもが手をかけて倒し、味噌汁がかかった。（程度：軽症）
- ・10ヶ月の子どもが自宅で炊飯器の炊き上がりの蒸気を触り、やけどをした。（程度：中等症）
- ・親が目を離した際に1歳の子どもがアイロンに触れてしまい、やけどをした。（程度：軽症）
- ・2歳の子どもが、自宅内でコンセントの中にヘアピンを入れてしまい、やけどをした。（程度：軽症）

■子どもの「やけど」を防ぐために

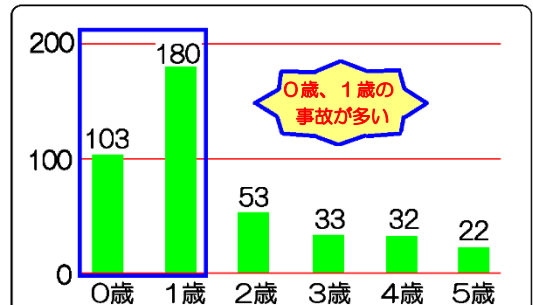
- ・やけどの恐れのあるものは、子どもの手の届かぬところに置かないようにしましょう。
- ・電気ポット等は、チャイルドロック等がついている安全な製品を使用しましょう。また、子どもが電気コードを引っ掛けないよう置き場所に配慮しましょう。
- ・子どもを抱いたままの調理は行わず、熱いものは冷ましてから与えましょう。

■やけどをしたときの応急手当

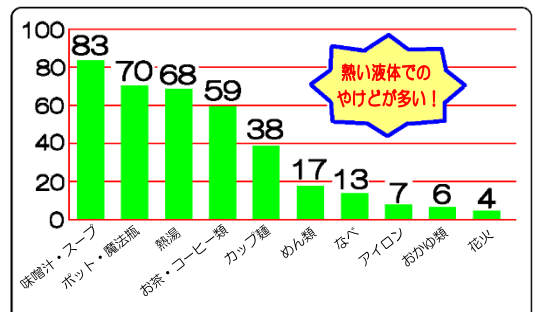
① 水で冷やす

水道水などの清潔な水で冷やす / 衣類を着ている場合は衣類ごと冷やす / 水疱を破らないようにする

② 広範囲のやけどのときは、早く医療機関を受診する。



年齢別のやけどによる救急搬送人員（平成30年中）



子どものやけど事故の原因上位10位（平成30年中）

